

ASEAN グローバルプログラムに 参加して

田中 雅都

Masato TANAKA

知能情報メディア課程 3年

1. はじめに（全体の概要・まとめ）

2023年8月26日から9月1日の7日間にかけて、ベトナムのハノイで行われた ASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的なスケジュールは下記の表のとおりである。

表 ASEAN グローバルプログラム日程

8/26	ハノイ着
8/27	ビジネスパーソンによるキャリアフォーラム、市内観光
8/28	ミッションの確認 ハノイ工業大学と交流
8/29	アンケート（市街地）
8/30	アンケート（大学） プレゼンテーション資料の作成
8/31	プレゼンテーション
9/1	関空着

2. 参加目的

今回、このプログラムに参加した目的は大きく3つあった。まず1つ目は生まれも育ちも全く違う人たちで構成されたチームで課題に対する解決策を期限内にまとめる経験を通して、共通の目標を立て、達成に向けてのプランニングをする能力を養うこと、すなわち、多様な人々で行う PBL を通して自らのプロジェクト解決能力を磨き上げること。2つ目は英語でのアウトプットが必要になる状況に身を置くことで、語学力を向上させることであった。私が就職したい業種では当然のことながら英語を使い様々な人とコミュニケーションをとる必要がある。ところが、私は高校生時代に海外に行くことができなかったため海外渡航する機会を待ち望んでいた。

ゆえにこのプログラムは私にとってこれ以上ない機会だった。

最後に3つ目は言語が通じない相手に対してコミュニケーションを取ることに自信をつけることであった。最初は英語で何とかなる部分があると思っていて調べしていた時に母国語がベトナム語であることがわかり、英語が通じない人とのコミュニケーションを体験することもできると思っていた。以上の理由から私はこの ASEAN グローバルプログラムに申し込みたいという固い決意ができた。

3. 研修内容

今回の ASEAN グローバルプログラムでは様々なプログラムが実施され PBL 活動におけるアンケートや調査と解決策の発表を行う機会を設けてくださったのは自らの力や糧となった。ここでは、8月27日に実施されたビジネスパーソンによるキャリアフォーラムについて述べる。これは現在ベトナムで働く細野麻理香さん、金澤正人さん、北村和也さん、石井圭太さん、西尾湧輝さん計5人のビジネスパーソンに対して私たち学生が海外で働くことになった経緯、過去の経験やキャリアプランについて質問するというものであった。このキャリアフォーラムで私たち計31人が5グループに分かれてテーブルに座り、ビジネスパーソンの方お1人がそのテーブルに座って話をし、そして一定時間の後、次のテーブルに移動することで実施した。

私がこのビジネスパーソンによるキャリアフォーラムで強く印象に残った点が2つある。驚いたことは、まず私が想像していた海外で働いているビジネスパーソンの方々は何十歳も年上の方々であり、ここでお話しさせていただいた方々は私と10歳ほどしか離れていないことであった。実際にその方々は溢れ出る自信と活気を持っておられ、私は十年でこんなに差ができるのかという気持ちを持った。十年という歳の差がそこまで長い年月ではないからこそ私たち学生が持つキャリアプランの設計についての悩みを話しやすく参考になった。5名の方とも同じ

回答ではなく多様な意見を持っておられ、行動計画を立て、実行に移す行動力は似た姿勢を感じることができた。

この計5名のビジネスパーソンの方々のお話から私が学んだのは、自発的に行動することに躊躇しないこと、言葉は通じなくてもボディランゲージなどを使ってコミュニケーションをとることを諦めないこと、やりたいことが見つかったらそれに向けてゴールと計画を設定することの計3つであった。その他にも柔軟性を持って行動することや、できないことを仕事にしないことなど、様々なことを学んだが、私は最低限でも先ほどの3つだけは忘れないように心に刻もうと強く思っている。

4. おわりに

今回のプログラムを通して私は凝り固まった視野や価値観、考え方を広げることができたかと思う。前述の通り、私は今回の ASEAN グローバルプログラムでのベトナムへの渡航が初めての海外経験であり、期待もある中で不安も大きかった。初めての飛行機、初めての国、初めて感じる空気やにおい、食べ物、時差ボケなどいろいろな刺激があり、私は二日目に体調を崩した。下痢や嘔吐をきたし普段ならしない乗り物酔いまでした。なんとかプログラムはすべて参加できたものの、渡航前に動画で見ていた

外国の様子とは異なり、実際に現地で感じた世界は、興味深いものの、身体にはいつもより負担がかかっていた。しかし、このようなつらい経験をしたものの、私は実際に現地に行き五感で世界を感じる体験は非常に貴重でかけがえのない経験であった。なぜなら私の中で想像していたベトナムと実際現地に足を運んだときに見たベトナムは印象が違っていたからである。事前学習や下調べで交通問題や価値観や文化をある程度は学んでいた。排気ガスによる大気汚染がひどいことやバイクの量が多い、日本に比べれば衛生管理や路面整備のレベルが非常に低いことなど、なんとなく頭で想像することはでき、実際にバイクのツーリング動画などでベトナムの町の様子を見て理解していた。しかし、私はこの事前に得た情報だけでは足りない部分を現地での体験から得ることができ、つらい思いをしてもベトナムに行ってよかったと思える。

近年は SNS の普及によっていろいろなことを知ることができる一方で、わかった気になりがちである。それは本でもネットの動画や記事でもすべて視覚で感じ取るものでそれが二次元の情報でかつ間接的な情報であるからである。しかし、現実を感じ取る本当に価値ある実体験を自分で取りに行く姿勢はずっと続けていくべきだと思う。